

2018/10/21 先週のメッセージより

「御心に生きる」

■御心に生きる

「そういうわけですから、賢くない人のようにではなく、賢い人のように歩んでいるかどうか、よくよく注意し、機会を十分に生かして用いなさい。悪い時代だからです。ですから、愚かにならないで、主のみこころは何であるかを、よく悟りなさい。」

(エペソ 5:15-17)

賢い生き方とは、神の御心は何であるかを悟る生き方だとあります。

人間とはどのような生き物か、いかに生きるべきか、人間は様々なアプローチを試みています。一般的な進化論は、この世は有限で、宇宙にも寿命があり、その中で人間は進化して誕生したと考えます。哲学では、人間は、生き物の中で唯一、永遠を求めて宗教を持つ生き物であることに目を留め、もしこの世界が有限であるなら、有限の世界しか知らない人間が永遠を求めるのは、不可能だと考えました。つまり、人間の本質には永遠があるということです。私たちは、それを神と呼びます。

神は朽ちることなく永遠です。人間の本質は、その神によって造られているため、人は、永遠を求めるのです。人は、神と共に生きるように造られており、本来朽ちることのない永遠の体を持っていました。しかし、悪魔に騙されたことによって神とのつながりを失い、この世界もろとも有限のものとなってしまったと聖書は教えています。

神のいのちで造られた魂は、もともと永遠を知っており、神を慕い求めることしかしません。しかし、世界が有限になったことで、人は永遠なる神を認識することができなくなったため、神の本質である自由を求めるようになりました。しかしそれは、実は魂が神を求めているからだということに、私たちは気づいていません。

人は自由を制圧されることに反発を覚えます。それは、神が制約されない自由な方であり、私たちの中にその神の本質があるからです。自由を求めて可能性を追求し、夢を持ち、その自由が制圧されることに憤りを感じるのは、魂が神を求めているからです。

しかし、人は神がわからないので、自分が何を求めているのかがわかりません。なぜ魂が喜び、なぜ失望し、なぜ怒るのか、その理由もわかりません。人は、それぞれ自由や可能性を様々なものに求めますが、魂が本当に求めているものではないので、何を手に入れても満足できず、また別のものを求めることを繰り返します。私たちの中に神のいのちがあり、その魂が神を求めていることがわからないと、苦しみは解決しないのです。

「私たちはキリストのからだの部分だからです。」(エペソ 5:30)

キリストのからだの部分として、私たちの魂は神と結びつくことを求めています。神の御

心は、あなたがそのことに気がつくことです。見えるものを求め、思い通りにいかないと腹を立てたり悲しんだり争ったりすることを繰り返す無駄な生き方をするのは、自分が神に近づこうとしていることに気がつかないためです。私たちは、神と離れていることによって、常に不安を感じています。つらい時に不安や絶望を感じるのは、つらさを通して常に存在している不安を垣間見ただけのことです。聖書が、愚かにならないで賢い生き方をせよと勧めているのは、自分がキリストを求めていることを悟り賢く生きることが、あなたを解放する唯一の道だからです。

■神を求める生き方とは

神は、人が自分で何を求めているかわからないことをあわれみ、ご自身がこの地上に来て、あなたが求めているのは私だと示してくださいました。それがイエス・キリストです。キリストは、この地上における正しい道を示し、私たちの光となってくださったのです。こうして人々は、闇の中に光を見ました。イエス様を見て、あの方を目指せばよい、これが私たちの目指す生き方だということを悟ることができるようになったのです。この地上で神を見ることはできないのですが、私たちが魂の求めている生き方について、イエス様は具体的に教えてくださいました。

1. 聖くなることを求める

「神のみこころは、あなたがたがきよくなることです。あなたがたが不品行を避け、各自わきまえて、自分のからだを、きよく、また尊く保ち、神を知らない異邦人のように情欲におぼれず、また、このようなことで、兄弟を踏みつけたり、欺いたりしないことです。なぜなら、主はこれらすべてのことについて正しくさばかれるからです。これは、私たちが前もってあなたがたに話し、きびしく警告しておいたところです。」

(I テサロニケ 4:3-6)

他の宗教で「罪」と言えば、悪い行いのことを指しますが、キリスト教が教える「罪」は、「イエス様に心を向けないこと」「イエス様を信じないこと」です。神によって造られ、神に結びつくようとしている人間が、そうしないことが罪なのです。それは、悪い行いをしても構わないというわけではありません。人が悪い行いをしてしまうのは、神に結びつけない不安が原因であるため、悪い行いは罪の本質ではないということです。

「聖くなる」とは、神としっかり結びつくことです。神と結びつくことを邪魔する、この世の情報に惑わされず、不品行を避けることです。しかし、もし惑わされて、他のものと結びついてしまったとしても、神の前にその罪を言い表すことで、また方向を戻すことができます。神に罪を言い表す時、人は自ずと神のほうを向いているからです。神は私たちを決して裁かず、引き上げてくださるのです。

神の御心は、私たちが罪の赦しを受けることです。完全な幸せを与えられないこの世の情

報に惑わされないと決意すること、もし惑わされてもまた神と結びついて生きていきたいと願うことが神の御心です。

2. 感謝する

「すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。」（Iテサロニケ 5:18）

私たちの心が正しく神に向かい、神に近づいていくと感謝できるようになります。もし心に怒りや嫉妬・憎しみがあるならば、その心は間違った方向に向かっており、感謝することができなくなります。

たとえ全世界を手に入れたとしても、やがてこの世は消えてしまいます。私たちの心が、本当に永遠なるイエス・キリストに向くならば、なくなるもので一喜一憂するのではなく、神とつながっていることに本当の喜びを覚え、感謝で心が満ちあふれるようになり、神を信頼できるようになります。

私たちは、自分の心が安定しないのは物事がうまくいかないせいだと考え、その原因を相手のせいにしたり、環境のせいにしたりしてしまうものですが、本当は、心が正しく神に向いていないことが不安の原因なのです。もし、心に感謝がないなら、イエス・キリストからずれていますから、神に心を向けましょう。このことに気づく人は幸いです。

3. 救いを願う

「神は、すべての人が救われて、真理を知るようになるのを望んでおられます。神は唯一です。また、神と人との間の仲介者も唯一であって、それは人としてのキリスト・イエスです。キリストは、すべての人の贖いの代価として、ご自身をお与えになりました。これが時至ってなされたあかしなのです。そのあかしのために、私は宣伝者また使徒に任じられ——私は真実を言っており、うそは言いません。——信仰と真理を異邦人に教える教師とされました。」（Iテモテ 2:4-7）

救われた人は、他の人の救いを願うようになります。心を神の方向に向ければ、自然とそのような思いがわいてきますから、もし自分がずれていると気づいたら、もう一度何が一番必要なのかを考えてみましょう。正しいものを求めない限り、心に平安はありません。神に心を向けて、自分は救いのために何ができるか、何をして生きればよいのかということに焦点を向けてみましょう。

■神と教会の関係

「教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。」(エペソ 1:23)

聖書は、教会はキリストのからだであり、私たちがその器官であると教えています。神は永遠の中にしか住むことができないので、この世に住むことはできません。しかし、私たちの魂のうちに住むことはできます。そこで、神がこの地上で神に代わるものとして造られたのが教会です。私たちの魂は神を求めています、実は、体も神を求めた行動をしたいと願っています。そういうわけで、教会に属し、教会の中で自分の役割を見出すことが、神と共に生きる具体的な生き方になります。このようにして神は、この地上でも神を求められるようにしてくださっているのです。

一人一人が教会の中の様々な働きの一部を担うことが、キリストのからだとして生きる具体的な生き方であり、それが、魂が慕い求める神の御心に生きることになります。神は、キリストのからだとして、私たちがをひとつに建てあげてくださり、こうして私たちは、キリストに近づくことができるのです。

「こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達するためです。」(エペソ 4:11-13)

■自分の役割を見出す

1. 自分の賜物を知る

「しかし、同一の御霊がこれらすべてのことをなさるのであって、みこころのままに、おのおのにそれぞれの賜物を分け与えてくださるのです。」(I コリント 12:11)

教会の中には、牧師や教師ばかりではなく、様々な働きがあります。一人一人に、神によっていろいろな賜物が与えられており、この賜物は一人でも多くの人に救われてほしいという方向に動いて、教会の働きに協力するものです。教会は私たちがキリストのからだとして一つになるところです。一つのキリストのからだを建てあげるために、救いのために何ができるか、祈り求めてみましょう。

2. できることから始める

神は人々の救いのために私に何をしてほしいと願っておられるのか、神から語りかけられ

る声を祈って待つのではなく、今、自分にできることを実行してみましょう。

私たちは皆、モーセやアブラハムのように特別でありたいと願うものです。しかし、あなたはすでに神にとって特別な存在です。自分で特別になる必要はありません。神が声をかけてくださり、命じられるのを待つことはありません。なぜなら神はすでにあなたに声をかけておられます。あなたが救われたのは、神の声を聞き、魂が応答したからです。

あなたはすでに特別な存在です。神は、今の延長にあることしかありませんから、今を大切に、できることから始めましょう。それは、今日の前にあるやるべきことを放り投げずに実行することです。その延長上に、次の働きが見えてくるようになるのです。

「機会を十分に生かして用いなさい。」(エペソ 5:16)

3. しっかりと結びつく

「キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分はその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。」(エペソ 4:16)

私たちはキリストのからだの一部です。人は、キリストのからだの中で成長します。一人で勝手に成長することはありません。聖書が教える愛とは、互いに結びつくことです。互いに結びつくことによって、キリストに結びつくのです。ですから、どんな賜物も、教会から独立して用いられることはありません。目立つ賜物は、一つとならずに単独で独立しようとする場合がありますが、教会の働きとならないものは傲慢になってしまう危険がありますから、ことさら結び合わされて成長していくものであることを忘れないように気をつけなければなりません。

神の御心は、私たちが聖くなり、神を信頼して感謝し、すべての人の救いを望む者となることです。それを具現化するのが教会です。教会につながり、礼拝を大切に、教会の中で役割を見出すことを求めましょう。こうして神としっかりと結び合わされることで、魂が求めている神に近づいていくことができるのです。これが私たちの平安であり、虚しさから解放される唯一の道です。